

ISSN 1341-6189

特定非営利活動法人 日本医学図書館協会主催・日本薬学図書館協議会協賛

第22回医学図書館研究会・継続教育コース プログラム・予稿集

会期：2015年11月18日（水）～20日（金）

会場：神戸大学医学部第1講堂、神緑会館

第22回医学図書館研究会・継続教育コース

「“使える” 図書館をアピールする」

2015年11月18日（水）～20日（金）

神戸大学医学部 第1講堂・神緑会館

目 次

第 22 回医学図書館研究会・継続教育コースの開催にあたって	1
医学図書館研究会プログラム	5
研究会 1. 朝日大学図書館除籍資料の統計的分析から見えるもの	8
香田友美恵, 村瀬由紀子, 安藤美紀(朝日大学図書館)	
研究会 2. 「見える」しかけて頼りにされる図書館へ～教員と連携した 企画展示と情報発信～	10
國見裕美(徳島大学附属図書館蔵本分館)	
研究会 3. 愛知医科大学医学情報センター(図書館)におけるターゲット別 企画展示の事例	12
近藤千春(愛知医科大学医学情報センター(図書館))	
研究会 4. 資料展示の実践とススメ	14
菅 修一(花園大学文学部図書館司書資格課程)	
研究会 5. 逆境に負けない! 図書館づくり: 東京歯科大学図書館閲覧業務報告	16
花田恵子(東京歯科大学図書館)	
研究会 6. 奈良県立医科大学附属図書館における自動貸出返却機の導入の 効果判定	18
木下智子(奈良県立医科大学附属図書館)	
研究会 7. 図書館空間分析に基づく館内サインの改善	20
黛 崇仁(東邦大学医学メディアセンター佐倉病院図書室)	
研究会 8. 東邦大学学術リポジトリ利用実態調査	22
長岡 優(東邦大学医学メディアセンター)	
研究会 9. 病院・大学・短期大学・看護専門学校の看護研究抄録を対象とした 引用文献の分析	24
廣瀬 洋(埼玉医科大学附属図書館)	
早川千鶴(毛呂病院看護専門学校図書室)	
中島裕美子(埼玉医科大学附属図書館日高キャンパス分館)	
小山有希子(埼玉医科大学附属図書館)	
新井花奈(毛呂病院看護専門学校図書室)	

研究会 10.	希少疾患診療ガイドライン作成のシステマティックレビュー： Hirschsprung病類縁疾患の経験から……………	26
	河合富士美(聖路加国際大学学術情報センター図書館) 荒木夕宇子(聖路加国際病院小児外科) 渡邊稔彦(国立成育医療研究センター外科) 松藤 凡(聖路加国際病院副院長) 田口智章(九州大学医学研究院)	
研究会 11.	非仲介型PPVサービスの比較：PPV告知は利用者行動に影響を 及ぼすか……………	28
	橋本郷史(東邦大学医学メディアセンター)	
継続教育コースプログラム……………		33
継続教育コース1「文献検索演習 中級編」		
医中誌Web……………		34
講師：八木澤ちひろ氏(京都大学医学図書館)		
PubMed……………		36
講師：赤井規晃氏(大阪大学 生命科学図書館)		
継続教育コース2「“使える” 図書館をめざそう」		
演題「図書館の広報デザインを考える」……………		38
講師：元木 環氏(京都大学 情報環境機構 IT企画室, 京都大学 学術情報メディア センター コンテンツ作成室)		
演題「和雑誌の電子ジャーナル化」……………		40
講師：中西秀彦氏(中西印刷株式会社)		
演題「使える図書館を目指す!? --- 医学図書館の移転・新築の経験から」……………		42
講師：山田久夫氏(関西医科大学医学部)		

第 22 回医学図書館研究会・継続教育コースの開催にあたって

前身の医学図書館員セミナーを引き継ぎ、1994 年から毎年開催されておりました医学図書館研究会・継続教育コースは、2016 年度から専門職能力開発プログラムの JMLA 研究会と JMLA-CE コースとして新たにスタートするため、今年度で終了いたします。

地区会輪番制で開催されたこの会は、その時代を反映したテーマと、参加者のニーズに合ったプログラムで、医学図書館員の自己研鑽、自己啓発を支援する場として貢献してきました。また、他館の図書館員同士が共に学び、地区会を越えた交流ができるなど、数少ない貴重な機会ともなっていましたが、今回の神戸開催をもって最終回を迎えることとなりました。

最終回のテーマは「“使える” 図書館をアピールする」としました。貴重な図書館資料が有意義に利用されるためには、広報が不可欠であり、またそのための環境整備も重要です。また、電子メディアの進歩により、図書館に来館しなくても資料や情報の入手ができるようになった今こそ、図書館の存在意義を示し、その必要性を認識してもらうために、“使える” 図書館をアピールすることは、図書館員の重要な役割ではないでしょうか。

初日の継続教育コース 1 は「文献検索 中級編」で、例年行っている「医中誌 Web」と「PubMed」の文献検索演習の中級レベル研修を行います。講師には、日頃の業務で文献検索に熟達され、講師経験も多い新進気鋭の 2 名の方をお願いしました。

2 日目の医学図書館研究会は、11 名の方の発表です。各図書館独自の取り組みや、個々の研究・調査等、多彩な内容で“使える” 図書館をアピールしていただきます。

最終日の継続教育コース 2 は「“使える” 図書館をめざそう」をテーマに、3 名の方にご講演をお願いしました。「図書館の広報デザイン」、「和雑誌の電子ジャーナル化」、「医学図書館の移転・新設」の内容で、それぞれの分野に造詣の深い先生方をお呼びすることができました。

この会に参加して学んだことが、自館の運営に生かされると共に、図書館員同士の交流のきっかけになることを実行委員一同願っております。

特定非営利活動法人 日本医学図書館協会 主催
日本薬学図書館協議会 協賛
第 22 回医学図書館研究会・継続教育コース
実行委員会委員長 青木 裕子

第22回医学図書館研究会

「“使える” 図書館をアピールする」

期日：2015年11月19日（木）

会場：神戸大学医学部 神緑会館

医学図書館研究会 プログラム

「“使える” 図書館をアピールする」

期日：2015年11月19日（木）

会場：神戸大学医学部 神緑会館

●11月19日（木）

- 9:30 開場・受付
- 10:00～10:25 1. 朝日大学図書館除籍資料の統計的分析から見えるもの
香田友美恵，村瀬由紀子，安藤美紀（朝日大学図書館）
- 10:25～10:50 2. 「見える」しかけで頼りにされる図書館へ～教員と連携した
企画展示と情報発信～
國見裕美（徳島大学附属図書館蔵本分館）
- 10:50～11:15 3. 愛知医科大学医学情報センター（図書館）におけるターゲット別
企画展示の事例
近藤千春（愛知医科大学医学情報センター（図書館））
- 11:15～11:40 4. 資料展示の実践とススメ
菅 修一（花園大学文学部図書館司書資格課程）
- 11:40～13:00 <休 憩>
- 13:00～13:25 5. 逆境に負けない！図書館づくり:東京歯科大学図書館閲覧業務報告
花田恵子（東京歯科大学図書館）
- 13:25～13:50 6. 奈良県立医科大学附属図書館における自動貸出返却機の導入の
効果判定
木下智子（奈良県立医科大学附属図書館）
- 13:50～14:15 7. 図書館空間分析に基づく館内サインの改善
黛 崇仁（東邦大学医学メディアセンター佐倉病院図書室）
- 14:15～14:35 <休 憩>
- 14:35～15:00 8. 東邦大学学術リポジトリ利用実態調査
長岡 優（東邦大学医学メディアセンター）
- 15:00～15:25 9. 病院・大学・短期大学・看護専門学校の看護研究抄録を対象とした
引用文献の分析
廣瀬 洋（埼玉医科大学附属図書館）
早川千鶴（毛呂病院看護専門学校図書室）
中島裕美子（埼玉医科大学附属図書館日高キャンパス分館）
小山有希子（埼玉医科大学附属図書館）
新井花奈（毛呂病院看護専門学校図書室）

- 15:25～15:50 10. 希少疾患診療ガイドライン作成のシステマティックレビュー：
Hirschsprung病類縁疾患の経験から
河合富士美（聖路加国際大学学術情報センター図書館）
荒木夕宇子（聖路加国際病院小児外科）
渡邊稔彦（国立成育医療研究センター外科）
松藤 凡（聖路加国際病院副院長）
田口智章（九州大学医学研究院）
- 15:50～16:15 11. 非仲介型PPVサービスの比較：PPV告知は利用者行動に影響を
及ぼすか
橋本郷史（東邦大学医学メディアセンター）
- 16:15～16:45 参加証明書授与・閉会
- 16:50～17:20 神戸大学附属図書館医学分館見学

朝日大学図書館除籍資料の統計的分析から見えるもの

香田友美恵，村瀬由紀子，安藤美紀

朝日大学図書館

1. はじめに

朝日大学は、歯学部、法学部、経営学部及び保健医療学部を有する 4 学部 6 学科の総合大学である。その中で、本学図書館は、主に歯学部及び保健医療学部向けの専門科目及び基礎教育に係る資料を中心に所蔵している本館と、法学部及び経営学部向けの専門科目に係る資料を中心に所蔵している分室（1985 年度開室）に分かれる。

2014 年 4 月の保健医療学部開設に向け、2013・2014 年度には設置計画に基づく新規資料の受入や、2013 年度の図書館内ラーニング・コモンズの設置及び 2014 年度のタブレット PC 付個席の設置のために、大量の資料を除籍することとなった。

本研究では、1985 年度から 2014 年度までの除籍資料を統計分析し、どのような傾向があるか考察する目的で調査を始めた。

2. 対象と方法

図書館本館及び分室で所蔵する図書、バックナンバー製本誌及び視聴覚資料を調査対象とした。このほか図書館は、講座及び病院図書室に所蔵する資料も管理しているが、今回の対象からは除外した。調査方法は、1985 年度以降 30 年間の除籍資料について、年度ごとに資料種別及び除籍理由別の冊数を図書館システムから抽出することで行った。

3. 結果

除籍件数は漸増傾向を予想していたが、変動が大きいことが確認された。その中でも冊数としては、2003 年度が最も多く、全所蔵冊数の 1.73%に当たる 4,558 冊（帳簿価格約 2,500 万円）を除籍している。次いで 2014 年度が多く、同 1.42%の 4,064 冊（帳簿価格約 4,000 万円）であった。また、除籍理由としては、①旧版のため 39%、②重複のため 32%、③代替資料あり 18%の順であった。

4. 考察

本学図書館の過去 30 年間の除籍については、本学の事情や、大学を取り巻く状況によるところが大きく、図書館の書庫容量の制約が最大の原因である。それが、学部設置に伴う所蔵冊数の急激な増加や改装等による書庫容量の減少により、大量の資料を除籍せざるを得ない状況に繋がっている。

第 86 回日本医学図書館協会総会（2015 年 5 月 28 日開催）において、雑誌分担保存の事業は見送られたが、除籍を急ぐあまり、貴重な資料が国内の図書館から消えてしまうという状況を避けるため、図書館界全体での対策が急務である。

MEMO

「見える」しかけで頼りにされる図書館へ～教員と連携した企画展示と情報発信～

徳島大学附属図書館蔵本分館 國見裕美
ヘルスサイエンス情報専門員（基礎資格）

1. はじめに

徳島大学附属図書館蔵本分館では、教員と連携してテーマ展示やオススメ本の紹介等の企画展示を行い、展示内容や関連情報をブログ等で日々発信している。これらの取組は、学習支援の「見える化」を図るとともに、教員に対しては図書館の取組を知ってもらい協力関係を築ききっかけとし、学生に対しては図書や学習方法への新しい気づきや活用を促すことを目的としている。本発表では取組内容の報告と効果についての考察を行う。

2. 展示概要

(1) テーマ展示（2012年11月～）

主に学生を対象とし、旬のテーマや1つの分野に収まらない学際的なテーマを取り上げ、関連する図書とiPadアプリを展示している。展示内容については関連分野の教員に監修を依頼し、職員案のチェックなどを行ってもらっている。また、2015年2月（第34回「味覚と嗅覚」）からは監修教員による解説動画の配信を開始している。

(2) My Recommendations（2014年3月～）

学生への読書推進の一環として、教員や学生から推薦図書を募り紹介文とともに展示を行っている。展示できる紹介文は300字程度が限界のため、可能な場合はブログ用として字数制限なしの紹介文も別途執筆してもらっている。

両展示とも「徳島大学附属図書館蔵本分館日誌」（蔵本分館ブログ）に内容紹介や利用者へのインタビュー等の関連情報をアップし、情報発信を行っている。また、図書館ホームページ内にも展示専用のwebページを設け、相互リンクさせている。

3. 効果についての考察

テーマ展示の展示図書について展示開始日の前後1ヶ月間における貸出回数を比較したところ、2015年8月までの39回中29回で展示後の貸出回数が増加しており、図書への新しい気づきや活用を促すという目的を果たしていると思われる。My Recommendationsコーナーの図書は貸出回数が非常に多く、平成26年度の貸出回数は年度途中に購入した図書も含め平均約5回であった。学生が身近な人からの紹介文に興味を持ち、本を読むきっかけの一助となっていることが伺える。

また、教員にテーマ展示の監修を依頼する際には、なるべく研究室に行き企画内容の説明をするようにしている。直接話をすることで企画の意図が伝わりやすくなり、職員の顔も覚えてもらえる。「図書館に何年も行ったことがない」という教員が監修をきっかけに来館してくれることも多い。今後も教員と連携して学習支援を行うことで内容の充実を図り、繋がりを作っていききたい。

MEMO

愛知医科大学医学情報センター（図書館）におけるターゲット別企画展示の事例 愛知医科大学医学情報センター（図書館）近藤 千春

愛知医科大学医学情報センター（図書館）（以下、当館）の利用者は、医学部・看護学部、大学院の学生、教職員、大学病院の医師・看護師等の教職員に加え、近隣の地域住民などである。

利用者によって図書館に望むことは異なり、それぞれのニーズを考慮しながら、当館では、さまざまなガイダンス、利用講習会を実施している。それらをサポートする形で展示を行うパターンが多い。今回の発表では、ターゲット（学生・看護師・地域住民）別の展示の紹介と課題を報告する。

企画から展示までの流れ

図書館展示企画書を作成している。展示の企画は、館員や学内者からの企画も受け付けている。企画書は、テーマ、概要（会期・場所・対象）、目的、内容を記入し、館内で共有できるようになっている。展示に必要な資料を収集し、展示ポスターやポップを作成し、ホームページやポスターなどで展示の告知を行う。

企画展示の事例

事例 1 学部生

新入学部生（医学部）のためのガイダンスと連携した展示

図書館に対して、親しみやすく気軽に利用できるように利用ガイダンスの時期にあわせて、図書館に興味をもってもらえるような資料の展示を行った。

事例 2 看護師

看護研究の文献検索講習会と連携した展示

看護部からの要請で、看護研究のための文献検索方法の講義を行っている。論文を執筆するまでのフローチャートをポスターにして、関連する図書の展示を行った。講習会時には、移動書架を使い、講習会会場での展示も行った。

事例 3 地域住民

めりーらいん健康支援事業に関連して、地域公共図書館と連携して実施した公共図書館でのイベント紹介と関連する図書の展示を行った。

大学の市民向け公開講座と連携して、講師の推薦図書のリーフレットの作成と図書の展示を行った。

今後の課題

今後は、教員の来館が少ないので、教員が発表したポスターを館内に展示する、教員と協働して利用者企画を実施する等の企画展示を実施したいと考える。図書館員以外を巻き込んだ展示や工夫によって、新たな発信等が可能となると考えられる。図書館員と利用者でお互い刺激しあえるような展示ができるよう努力していきたい。

MEMO

資料展示の実践とススメ

個人会員（花園大学文学部図書館司書資格課程） 菅 修一

1. 本年 2015 年 5 月の資料展示会実践

膳所歴史資料室（滋賀県大津市）にて主催者の膳所歴史資料室運営協議会の皆さんと共に小生の収集した明治から現代までの小学校教科書の展示会「教科書の移り変わり」を行った。

教科書を時系列に並べたほか、同歴史資料室から関係者に声を掛けていただき、地域の皆さんの小学校生活についての証言を多数寄稿していただき展示目録を作成した。戦前の小学校生活や昭和 21 年に刊行された暫定教科書を巡る体験、また地元の小学校校歌の変遷もわかった。戦後 70 年の本年、貴重な証言・記録を残すことができた。展示会を見学した人たちは、展示目録を「懐かしい」、「友人にも読ませたい」と複数部数持ち帰られる場合もあり、有用なものとなった。

2. 医学図書館でも是非資料展示会を：滋賀医科大学附属図書館での経験から

小生は以前、滋賀医科大学附属図書館に勤務した。滋賀医科大学には「河村文庫」「守一堂文庫」という二つの古医書のコレクションがあり、その古医書を展示する「湖国の医家」（2007 年 3 月）「湖国の医史」（2008 年 10 月）という展示会を企画した¹⁾²⁾。寄贈受入から長時間経ち、寄贈された方との縁も途絶えていたが、前記資料展示会の実施によりご子孫とのご縁が復活することが出来た。加えて、図書館員なりに展示資料について学び所蔵資料に精通する機会となった。

また、2009 年 11 月、高大連携の観点から膳所高校に滋賀医科大学附属図書館所蔵の古医書と共に大学の講義シラバスや内科の教科書や解剖学アトラスを貸出し、展示した。高校生が大学教育の一端に触れる有効な機会となった（当時、本件を担当した寺升夕希さんが保管されているメモ及び文書から）。医科大学の図書館に当たり前のように配架されている図書も展示に有用な場合があった。

3. 結論

以上、資料展示会という一つのイベントを実施することにより、新たな情報を収集でき、地域の方との共同作業による新たな人とのつながりもできた。開架書架に並ぶ現代の医学専門書も展示に有用な場合があった。皆さんに資料展示することをお勧めする次第である。

文献

- 1) 菅修一, 赤澤久弥, 寺升夕希. 滋賀医科大学附属図書館「湖国の医家: 彦根藩医河村家旧蔵書展」開催報告. 大学図書館研究. 2007;81:53-8.
- 2) 菅修一, 辰野直子, 寺升夕希. 滋賀医科大学附属図書館資料展示会「湖国の医史—先人たちの活躍を知る」報告: 企画から開催まで. 医学図書館. 2009;56(2): 161-6.

MEMO

逆境に負けない！図書館づくり：東京歯科大学図書館閲覧業務報告 東京歯科大学図書館 花田恵子

1. はじめに

東京歯科大学は 2013 年 9 月にメインキャンパスを千葉から水道橋へ移転した。本館校舎、新館校舎、さいかち坂校舎の水道橋キャンパスと、千葉校舎、市川総合病院の 5 つの図書館で構成されることとなった。移転後は複写業務などの閲覧業務の中核が水道橋キャンパス本館へ移行されたが、資料配置等を含めた環境の変化に対応した運用について大幅に見直す必要があった。移転直後の状況、移転前後の ILL 受付の変化などの閲覧業務を中心に現在の状況、今後の課題を報告する。

2. 別置資料への複写申込の対応

移転に伴い所蔵資料の移動を行ったが、雑誌については収容規模の大きさを考慮し 2013 年以降発行のものを配置し、バックナンバーについては千葉校舎に別置することとした。別置資料の複写については、千葉校舎にてスキャンしたものをメール添付し、本館にて出力して提供することとしたが、画質の粗さ、スキャンした文献を提供することの抵抗感から、ILL 受付による学外からの申込に対しても学内同様の対応で良いのかどうか懸念された。しかし移転前、千葉校舎、市川総合病院間で前述の方法での文献のやり取りが既に何件もあったこと、複写物を千葉校舎より学内便で取り寄せた場合、発送処理までに 3~4 日のタイムラグが発生してしまうことを考慮し、ILL 受付に対してもスキャンしたものを出力して発送する運用にすることとした。画質に関しては適切な画素数などの設定について試行錯誤し、実際に複写したものと比べても遜色のないものを出力することが可能になった。

3. 移転前後で見る ILL 受付の推移

相殺・非相殺館からの受付件数を移転前後で比較したところ、移転前 2 年（2011 年 8 月～2013 年 8 月）4,267 件（うち非相殺館:1,472 件）、移転後から現在（2013 年 9 月～2015 年 9 月）2,217 件（うち非相殺館:619 件）と大幅な減少傾向にある。件数減少の大きな理由としては移転したことが挙げられ、さらに 2014 年 4 月からの複写料金の値上げも理由の一つとして想定される。値上げ前の 2013 年度の受付件数は 1,482 件（うち非相殺館:400 件）、値上げ後の 2014 年度は 1,022 件（うち非相殺館:318 件）となった。また、前述の別置資料文献の送付方法についてレンディングポリシーに明記しているため、申込時に抵抗感を抱くことも少なくないのではないかと考えられる。

4. よりよいサービスの提供を目指す

利用者サービスを見直す中、さらにスマートな文献提供のために、EDDS の導入を検討している。導入に向け、ILL 業務に携わっているスタッフ間で、どのように業務を行うか等、議論しなければならない。移転から 2 年経過したがまだまだ運用に足りない点や利用し辛い点が多く見られる。今回は主に複写業務についての報告となったが、図書館全体を広い視野で見、環境の変化をチャンスと捉え、よりよいサービスの提供ができる図書館を目指し邁進していきたい。

MEMO

奈良県立医科大学附属図書館における自動貸出返却機の導入の効果判定

奈良県立医科大学附属図書館

木下 智子

1. はじめに

奈良県立医科大学附属図書館では、平日の有人開館時間は 8:45~18:00、無人開館時間は 8:00~8:45、18:00~24:00、土日祝の無人開館時間は 8:00~24:00 となっている。2014 年 10 月から自動貸出機を導入し、無人開館時の貸出が可能になった。さらに、2015 年 4 月には返却機能も追加し、無人開館時の貸出・返却の利便性の向上に取り組んでいる。今年 10 月に導入から 1 年が経過するにあたり、自動貸出返却機の導入効果を判定するため、導入前後の貸出・返却における利用者数の変化を調査する。

2. 調査方法

調査する期間は、2014 年 4 月~2014 年 9 月と 2015 年 4 月~2015 年 9 月に設定する。方法としては、該当する期間の貸出・返却データをカウンターログから抽出、月別の貸出・返却冊数の推移、所属別利用者数の割合・利用履歴などの比較・分析を行う。

3. 調査結果

2015 年 9 月時点での調査結果（各年 4 月~8 月までの約 5 ヶ月間のデータの比較）では、貸出・返却の合計冊数が、導入前と比べてそれぞれ 1500 件以上増加していた。月別の貸出冊数を比較してみると、すべての月で増加傾向にあり、平均して約 1.4 倍増加している。同様に、導入後の返却冊数は月平均で約 1.5 倍増加し、中でも 2015 年 8 月の返却冊数は昨年同月の約 2.1 倍であった。

また導入前の貸出履歴から、所属別の利用者数を資料ごとに割り出した結果、図書の貸出の約 8 割を医学科・看護学科の学生が占める結果となった。雑誌の貸出が最も多い利用者群は看護学科の学生で、全体の約 4 割を占めていた。次いで技師系職員が約 3 割と利用が多く、技師系職員の利用者の内の約 9 割が看護師であった。導入後の貸出履歴についても、導入前と同様に資料種別ごとの利用者数の割合を算出し、さらに無人開館時間帯の利用状況に着目してデータの分析を行う予定である。

4. 今後の課題

このように、カウンターログからは貸出・返却冊数の増加が見られ、無人開館時のサービスにおける利便性が高まったと考えられる。他にも、当館側のメリットとして、無断持出の減少やカウンター対応の縮減などが挙げられる。一方で、資料を何度も同一人物が貸出可能なこと、利用カード（学生証）の忘れ物が多いこと及び一部の資料が自動貸出返却機に未対応であることなどの問題点も発生している。また、未だに利用者から、自動貸出返却機が導入されたことを知らなかったという声が聞かれる。これらの問題点をいかに改善していくかが、今後の課題である。

MEMO

図書館空間分析に基づく館内サインの改善

黛 崇仁

東邦大学医学メディアセンター佐倉病院図書室

1. 背景と目的

サインとは、人と人、人と物、人と場所の間で情報を円滑に伝達するために空間に配置された「言葉」であり、どんな人にとっても情報が「正確に、早く、よく伝わること」が必要不可欠である。そのため、サインの表示面をデザインするグラフィックデザインの要素のみならず、それを空間にどう配置するかについても重要である。

図書館におけるサインについては、サイン計画によって作成されたものから図書館で作成した自作のものまで、実にさまざまなサインに出会うことができる。特に、サイン計画によって作成されたサインを補う形で自作の張り紙やサインで補う例を見かけることが多い。これは、最初のサインの設置場所に問題があったからではないかと思われる。

このような例から、サインを設置するにあたって建築図面上で人の動きを分析するだけではなく、設置する空間を分析することも重要ではないかと考え、本研究では東邦大学医学メディアセンター本館の空間について分析し、その分析結果を元に館内サインの改善について検討を行う。

2. 方法

空間の分析にはスペース・シンタックス理論を用いる。スペース・シンタックス理論とはロンドン大学の Bill Hillier らによって提唱された空間構成の分析手法で、空間の繋がり方の特性を数値化し分析することができる。分析には UCL で開発されたスペース・シンタックス理論の分析ツール DepthMap を用いる。

そして、空間の分析結果を元に現状のサイン設置場所について評価を行うとともに、分析結果からより最適なサイン設置場所を検討し、現状のサイン設置場所との比較を行う。

MEMO

東邦大学学術リポジトリ利用実態調査

東邦大学医学メディアセンター 長岡 優

1. 背景と目的

機関リポジトリは、「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」と言われており、現在大学を中心に、433 の機関リポジトリが公開されている。

東邦大学では、東邦大学学術リポジトリを 2013 年 3 月 23 日に正式公開した。掲載しているコンテンツは、著者および出版社の許諾の取れた雑誌掲載論文、公開許諾の得られた修士論文・博士論文、東邦看護学会誌、東邦医学会雑誌、額田文庫、東邦大学教養紀要である。正式公開から 1 年半を経過したため、公開から現在までの取り組みについてまとめ、利用ログの分析から利用の特徴について考察し、さらなる利用向上を図る。

2. 公開から現在までの取り組み

2012 年 7 月に XoonIps を使用した東邦大学学術リポジトリの試験運用版を公開、2013 年 3 月に正式公開となっている。

機関リポジトリと言った際にメインコンテンツとなる雑誌掲載論文や学位論文の他に、東邦大学学術リポジトリでは、東邦大学医学会が発行する東邦医学会雑誌、Toho Journal of Medicine、東邦看護学会が発行する東邦看護学会誌の電子版を公開している。特徴的であるのは、2009 年に本学創立者である額田豊・晋先生のご実家である額田家からご寄贈いただいた 17 世紀から 19 世紀にかけて出版された和装本 43 種類 275 冊からなる医学書のコレクションをデジタル化した「額田文庫デジタルコレクション」も収録し、公開していることである。

3. 利用ログの分析

現在調査中であるため、詳しい結果については当日にご報告させていただく。

東邦大学学術リポジトリでは、XOOPS のアクセス解析モジュール XOOPS Analyzer3 と、Apache 上の統計ソフトである Webalizer、Google アナリティクスを用いて統計を取っている。それらの統計を組み合わせ分析し、利用の特徴を見る。

現在公開されているコンテンツ数は、約 1,000 件である。コンテンツのダウンロード数は公開後順調に伸び、今年度は月平均 8,500 件程度ダウンロードされている。

利用の特徴としては、ダウンロード上位の文献には、2013 年から同じ文献がランクインしていること、上位の論文以外はダウンロードされた回数の割合が少ないこと、ダウンロード数は、東邦医学会雑誌や東邦看護学会誌が多く、博士論文などの学位論文は少ないことが挙げられる。

MEMO

病院・大学・短期大学・看護専門学校の看護研究抄録を対象とした引用文献の分析
廣瀬洋¹，早川千鶴²，中島裕美子³，小山有希子¹，新井花奈²

¹ 埼玉医科大学附属図書館，² 毛呂病院看護専門学校図書室，

³ 埼玉医科大学附属図書館日高キャンパス分館

1. はじめに

本学には関連法人を含めて 7 館の図書館がある。これらの間では資料の相互利用が行われている。電子ジャーナルなどの電子資料は 1 館を除いて共有されている。

このような環境において、図書館は利用者の成果物の作成にどれだけ寄与できているのだろうか。具体的には利用者の成果物の引用文献に、本法人の図書館の所蔵資料はどの程度使われているか。また、引用文献に占める冊子と電子の比率はどのくらいか、利用者の所属による引用文献の違いはあるのだろうか。これらの点を確認するために調査を行った。

2. 方法

調査対象は、病院職員の看護研究発表会の抄録・集録，学生の看護研究やケーススタディの抄録・集録，教員の紀要掲載論文の 2014 年度発行分計 10 冊とした。ここでの利用者は看護師，大学・短期大学・専門学校の学生及び教員に限定される。

利用者の成果物に記載されている引用文献・参考文献を使用された資料として記録し，数え上げた。記録した項目は，引用文献の著者・書名・巻号等書誌事項，契約中または無料の電子資料か，などである。書誌が同定できないものは数に含めていない。同一の利用者が同じ資料を複数回引用した場合は 1 件と数えた。

3. 結果

調査対象とした 10 冊には 377 件の論文が掲載されており，引用文献は 1245 件であった。引用文献のうち，冊子体のみの所蔵が 719 件，電子版有料契約のみが 81 件，冊子体の所蔵かつ電子版有料契約が 123 件，無料の電子版が 223 件，冊子体・電子版ともに所蔵なしが 99 件であった。電子版有料契約までを本法人の所蔵と捉えると，引用文献の 74.1%が本法人内で入手できたことになる。

上記の冊子体のみの所蔵だけを冊子体とすると，冊子体からの引用 719 件，電子版からの引用 427 件となる。本法人内や電子版で入手できた文献は，冊子体 62.7%，電子版 37.3%となる。利用者の所属ごとに冊子体と電子版の入手比率を確認すると，1:1，2:1，1:2，9:1 などとばらついた。

4. 考察

本法人内での文献入手が 74.1%であることは，先行研究^{1),2)}と比較して同等であることが確認できた。冊子体と電子版の入手比率が利用者の所属ごとにばらつく理由としては，前述の電子資料を共有できていない館は電子版の入手率が 10%前後となっていることから，電子資料へのアクセスのしやすさに違いがあることが考えられる。

1) 松坂敦子，阿部由美子. 看護学生の研究論文における引用（参考）文献の調査から考える司書の役割. 看護と情報. 2011;18:90-95

2) 松下咲子，相原伸郎，小野桂. 雑誌論文の引用分析. 看護と情報. 2012;19:104-109

MEMO

希少疾患診療ガイドライン作成のシステマティックレビュー：Hirschsprung 病類縁疾患の経験から

河合富士美*1、荒木夕宇子*2、渡邊稔彦*3、松藤 凡*4、田口智章*5、
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「小児期からの希少
難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」班

*1 聖路加国際大学学術情報センター図書館、*2 聖路加国際病院小児外科、*3 国立成
育医療研究センター外科、*4 聖路加国際病院副院長、*5 九州大学医学研究院
ヘルスサイエンス情報専門員（上級資格）

1. はじめに

「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014」が発刊され、診療ガイドラインはシステマティックレビュー（以下、SR）に基づき作成されることが推奨されている。現在日本では厚生労働省研究班によりエビデンスの少ない希少疾患を扱う複数の診療ガイドライン作成が進められている。本研究は方法論が確立されていない中、Hirschsprung 病（以下、H 病）類縁疾患のシステマティックレビューに取り組んだ事例として報告する。

2. 疾患の概要

H 病は先天的に腸管の神経節細胞が欠如するために腸管蠕動不全をきたし腸閉塞症状を呈する疾患であるが、病変の範囲が限定されておりその診断と治療法は確立されている。一方、H 病類縁疾患は直腸に神経節細胞が存在するにもかかわらず H 病に類似した症状を呈する疾患の総称で、疾患の稀少性のためその分類や治療方針に関するコンセンサスが得られていない。現在のところ、神経節細胞に形態学的異常を呈するもの（Immaturity や Hypoganglionosis など）と、異常が認められないもの（CIIPS や MMIHS など）に分類するのが一般的である。今回ガイドライン作成にあたり、7 つの Clinical Question（以下、CQ）を設定した。

3. 文献検索とスクリーニングの概要

2015 年 1 月末～2 月初めに文献検索を行い、PubMed で 504 件、医中誌 Web で 217 件、合計 721 件の文献が得られた。3 名で 1 次スクリーニングを行いリーダーが結果を確認して、明らかに不要な文献を除外した結果、360 件が 2 次スクリーニングへ進んだ。2 次スクリーニングは 10 名が分担し、SR チームで確認、結果をまとめた。

4. 2 次スクリーニングと SR の方法

SR は通常 2 群を比較した研究を選択し定性的、可能であれば定量的に統合するが、本疾患で得られた文献は殆どが症例報告・症例集積であった。また、疾患概念が確立していないため、一つの文献に複数の疾患が扱われていることも多く、実際に読まないどのような記載がされているかわからない。そのため、全ての文献に目を通し、各文献がどの CQ に該当しているか、どのようなアウトカムが取り上げられているか、害の報告があるかをエビデンステーブルにまとめることとした。

5. まとめ

診療ガイドラインは SR に基づいて作成される。しかし、RCT や比較研究の殆ど無い疾患の SR 方法は確立されていない。本研究により希少疾患を扱う場合のエビデンスとなる診療ガイドラインが適切に作成され、医療の質が向上することを期待している。

MEMO

非仲介型 PPV サービスの比較：PPV 告知は利用者行動に影響を及ぼすか

橋本 郷史

東邦大学医学メディアセンター

I. 背景と目的

東邦大学では、雑誌価格高騰への対策と利用者ニーズへの対応を両立させるべく、2014年1月より、Nature Publishing Group (NPG) の雑誌(印刷版、電子版)のほとんどを購読中止し、かわりに、論文単位で利用する Pay-Per-View (PPV) サービスを、利用者が直接利用する非仲介型で導入した。その結果、価格高騰を抑えつつ、利用できる雑誌の範囲を広げ、利用数も増やすなど、効果をあげることができた¹⁾。

しかしその利用ログを分析すると、同じ論文の重複利用が全利用の約3分の1を占めていた。NPG のプラットフォームでは、PPV 利用前の告知が無く、利用者は PPV タイトルと契約タイトルを区別することができない。重複利用は不適切な利用とは言えないが、契約タイトルと勘違いした利用によって、必要以上にコストがかかっている可能性がある。

PPV の重複利用は、海外の論文でも注意すべき点として指摘されている^{2),3)}。系統的に PPV 利用の告知を行うべきである²⁾とする意見がある一方で、その告知が利用にどう影響を与えているか不明であるという疑問も呈されている³⁾。そこで本研究では、PPV の重複利用状況について調査する。本学では Elsevier の PPV サービスも導入しており、こちらは利用前にその旨が告知されるようになっている。両サービスの利用を比較し、PPV の告知が利用にどのような影響を及ぼしているか、明らかにしたい。

II. 方法

3種類の調査を行う。

- ①NPG/Elsevier の両サービスの PPV ログを使用して、その利用傾向を比較する。
- ②学内のネットワークアクセスログを使用して、重複利用のアクセス元を分析する。
- ③利用者にアンケートを行い、PPV を意識した場合、論文利用行動にどのような変化が生じるかを調査する。

III. 結果

2014年の利用ログの比較の結果、出版年とタイトル別の利用傾向はNPGとElsevierのどちらのサービスでも類似した傾向を見せた。ともに、当年と前年の2年間の論文に利用が集中していた。それ以降の利用は大幅な減少を見せ、10年間で全利用の約9割に達した。また、利用されるタイトルの内上位1割のタイトルの利用が、全利用の約5割を占めた。

一方で、重複利用の点では両サービスは異なる傾向を見せた。NPGでは前述のとおり全利用の約3分の1が重複利用だったが、Elsevierでは重複利用は全利用の約1割だった。また、利用のあった全論文中の重複論文の割合はNPGでは約2割、Elsevierでは約1割であった。重複が最も多い論文はNPGでは40回、Elsevierでは8回利用されていた。

IPアドレス調査とアンケート調査については研究会で報告する。

1)橋本郷史. 医学図書館. 2015;62(2):131-6.

2)Zhang T. Libr Digit Age Proc. 2012;12:1-14.

3)Weicher M, Zhang TX. Ser Libr. 2012;63(1):28-37.

MEMO

第22回継続教育コース

継続教育コース 1

「文献検索演習 中級編」

医中誌Web：講師 八木澤ちひろ氏
(京都大学医学図書館)

PubMed：講師 赤井規晃氏
(大阪大学 生命科学図書館)

継続教育コース 2

「“使える” 図書館をめざそう」

演題 「図書館の広報デザインを考える」

講師：元木 環氏
(京都大学 情報環境機構 IT企画室、
京都大学 学術情報メディアセンター コンテンツ作成室)

演題 「和雑誌の電子ジャーナル化」

講師：中西秀彦氏
(中西印刷株式会社)

演題 「使える図書館を目指す!? --- 医学図書館の移転・
新築の経験から」

講師：山田久夫氏
(関西医科大学医学部)

期日：2015年11月18日(水)、20日(金)

会場：神戸大学医学部 第1講堂、神緑会館

継続教育コース プログラム

期日：2015年11月18日（水）、20日（金）

会場：神戸大学医学部 第1講堂、神緑会館

●11月18日（水） 継続教育コース1 「文献検索演習 中級編」

- 13:00 開場・受付
- 13:30～15:00 医中誌Web：講師 八木澤ちひろ氏(京都大学医学図書館)
- 15:00～15:15 <休憩>
- 15:15～16:45 PubMed：講師 赤井規晃氏(大阪大学 生命科学図書館)
- 16:45～17:00 修了証書授与

●11月20日（金） 継続教育コース2 「“使える”図書館をめざそう」

- 9:00 開場・受付
- 9:30～10:30 演題「図書館の広報デザインを考える」
講師：元木 環氏
(京都大学 情報環境機構 IT企画室,
京都大学 学術情報メディアセンター コンテンツ作成室)
- 10:30～10:40 <休憩>
- 10:40～11:40 演題「和雑誌の電子ジャーナル化」
講師：中西秀彦氏(中西印刷株式会社)
- 11:40～11:50 <休憩>
- 11:50～12:50 演題「使える図書館を目指す!? ― 医学図書館の移転・新築の経験から」
講師：山田久夫氏(関西医科大学医学部)
- 12:50～13:05 修了証書授与

文献検索演習 中級編 医中誌 Web
 京都大学医学図書館
 八木澤ちひろ

講演要旨:

医中誌 Web は、国内発行の医学関連領域の書誌情報において最大級のデータベースです。医学関連分野の図書館員が知識として押さえておくべき重要なツールのひとつと言えるでしょう。

このクラスでは、「医中誌 Web が何を調べるデータベースかわかる」「キーワードを検索ボックスに入れて検索したことがある」「AND, OR, NOT といった演算子の働きを理解できる」という初級レベルの知識のある図書館員を対象に、より利用者の情報行動を意識した検索と、医中誌 Web の特徴や検索機能の構造に焦点を当てます。具体例と実習をまじえて、日々の検索講習やレファレンスなど「実践で使える」検索を目指します。

初級レベルの知識に関して不安のある場合は、事前に医中誌 Web にアクセスして検索してみる、あるいは参考文献 1 の 1 章から 3 章に目を通しておくことをおすすめします。

■ 疑問を定式化してみよう

文献検索の最初はキーワードの選定です。調べたいテーマを明確にするために有効な手法として PICO/PECO を紹介します。

■ 統制語を調べよう [シソーラス参照] [副標目]

キーワードを選定する上で、検索テーマに合った統制語(シソーラス用語)を知っておくのは有効な方法です。医中誌 Web の自動マッピング機能で、意識することなく統制語を含めた検索ができますが、その構造を理解すれば精度の高い検索も可能です。さらにシソーラス用語に副標目を掛け合わせて、テーマを絞り込む方法も紹介します。

■ 論文種類・研究デザインで絞り込もう [論文種類]

医中誌 Web 上で論文は「原著論文」「解説」「総説」「会議録」などの種類に分けられています。それぞれの性質を理解し、どのような論文に絞り込むのが適切か、あるいは絞り込まないほうがいいのか判断しましょう。また、「ランダム化比較試験」「システムティックレビュー」「メタアナリシス」など EBM に有効な研究デザインを知っておくと検索キーワードに追加して絞り込むことができます。検索の目的を考慮して条件を追加しましょう。

■ 論文情報を保存しよう

検索した結果はそのまま閉じてしまうと後で見返すのに手間がかかります。書誌情報や検索式を保存しておく方法をいくつか覚えておきましょう。

参考文献:

1. 諏訪部直子, 平紀子. わかりやすい医中誌 Web 検索ガイド. 日本医学図書館協会. 2013.
2. 諏訪敏幸. 看護研究者・医療研究者のための系統的文献検索概説. 近畿病院図書室協議会. 2013.

MEMO

「文献検索演習 中級編」 PubMed

赤井規晃

大阪大学 生命科学図書館

【趣旨】

本講習は、保健・医療分野の情報サービスに必要な文献検索の知識およびスキルを習得することを目的に、3段階（ベーシック・アドバンスト・プロフェッショナル）のレベルを設定して行われるものであり、この中級編は、アドバンスト・レベルにあたります。

【目標】

本講習では、文献データベース PubMed を使用して、ベーシック・レベルの技能を踏まえ、シソーラスや付加的機能を活用してよりの確な検索ができるようになるとともに、利用者向け講習会を実施できるようになることを、目標とします。

【内容】

以下の 2 点を中心に講義の内容とします。

1. MeSH (Medical Subject Headings) の活用
 - ・ MeSH とは
 - ・ MeSH の検索方法・使い方
 - ・ MeSH の効用
2. よりの確な検索のために
 - ・ 検索の方略と検索結果評価のポイント
 - ・ 効果的な検索のための機能を知る
 - ・ スキルアップのための工夫

【事前学習】

ベーシック・レベルの学習事項はおさらいしておきましょう。

1. 文献検索の基礎
 - ・ 演算子 and, or, not
 - ・ シソーラスの概念
2. PubMed の基本操作
 - ・ インターフェース
 - ・ キーワード検索・履歴検索・フィルター
 - ・ 検索結果の見方・保存方法

MEMO

図書館の広報デザインを考える

京都大学 情報環境機構 IT企画室
京都大学 学術情報メディアセンター コンテンツ作成室
元木 環

筆者の経験上、医学系図書館に限らず、大学等の組織における活動についてよりよい“広報”を考えることには困難が付きまとう。筆者の所属する組織での広報活動を、自己反省的に振り返ると、それは、

- 1) ステークホルダが多様であること
- 2) 活動（支援やサービス）が多様であること
- 3) 現状の認識や方向性等の意識が組織内で多様に存在すること
- 4) 目標の設定を明確な形で設定しにくい
- 5) 組織としてどのように選択、決定していくのか主体が不明瞭といった状況に起因すると考えられる。

戦略的な広報を実施するための広報デザインのプロセスでは、まさに上記のような点を明確に意識し、解決手段を見いだすことが推奨されているが、これでは、デザインのプロセスに入る準備できていないと見ることもできる。しかしこれらは、組織や活動の性質、特有のものでそれ自体が特色であり、こういった状況を受け入れつつ、どのように広報デザインを行うことが可能なのか、その方法について考えてみたい。

本講演では、組織内で意識や目標の共有化を図ることを目指すために、現状や方向性について意識をする手段の事例として、大学内の支援サービス周知のためのパンフレット作成や、科学コミュニケーションの実践研究を紹介する。

また、それぞれの図書館の広報のデザインを考えるきっかけとして、時間の許す限り今回の研究会のテーマにある「“使える”図書館」の捉え方についても、参加者から意見を募りたい。

MEMO

和雑誌の電子ジャーナル化

中西秀彦

中西印刷株式会社

1. はじめに

ジャーナルの国際化が叫ばれて久しいが、投稿をはじめて行う学生や臨床の医師にとっては、英文の論文を読みこなし、執筆するのは容易なことではなく、依然として和雑誌の需要は大きい。電子ジャーナル化についても今までは英文誌を中心に進んできたが、和文誌の電子ジャーナル化が今後進むと思われる。中西印刷では英文誌の XML ジャーナルのための XML データ作成に取り組んでおり、このたび和文にもこれを適用し、公開した。

2. XML ジャーナルと PDF ジャーナル

日本での電子ジャーナル公開は PDF 形式によるデータアーカイブと書誌情報のデータ提供という形がまだ大部分を占めている。PDF ジャーナルは印刷用の電子データがあれば作成が容易であり、プリントアウトして読む場合は従来の印刷物に近いかたちで読めるため読者にもなじみやすい。しかし PDF では画面で読むと、紙で読むことを前提とした版面構成がかえって可読性を妨げる。それに対し XML ジャーナルの場合、画像のサムネイル表示やデータベースへのリンク情報の提供など、インターネット時代にふさわしい利用法が可能であるし、タブレットやスマホなどへも最適なかたちで表示が可能となる。

英文誌の場合、特に海外の出版社がこうした XML ジャーナルに積極的に取り組んでおり、実に多彩な機能が提供されている。こうした環境から日本の環境に目を移した場合劣った感は否めず、日本の学術誌の海外出版社への流失の一因ともなっていると考えられる。

3. 和文 XML ジャーナル

日本でも徐々に XML ジャーナルの重要性は認識されており、J-STAGE でも 2012 年の J-STAGE3 から XML ジャーナルが本格的に運用可能となっている。またこの新しい仕様では日本語での XML ジャーナルも提供可能であり、中西印刷では和雑誌の電子ジャーナル化に取り組んだ。対応するスキーマは J-STAGE で規定する JATS(Journal Article Tag Suite) である。JATS は NLM が策定した NLM-DTD が広くデファクトスタンダード化したため、新たに NISO 規格となったものである。

基本的に STM ジャーナルは文書構造が国際的に共通であり、英語を日本語に置き換えるだけで、和文 XML ジャーナルは可能だった。しかし、日本語には行頭・行末禁則など独特の組版規則があるため、XML 作成には困難を伴った。また日本語論文においては通常人名は姓名を分けて表記されないため、それを JATS 化するためには独自の工夫が必要だった。

4. 今後の展望

医学系を中心とした STM 領域では、現状でもそれほど問題があるわけではないが、今後和雑誌のオンラインジャーナル化は文系誌へ進むと考えられる。そうなる縦書き対応や、注の中にリファレンスを混在させる独自の論文技法が電子ジャーナル化の障害になってくると考えられる。そのためには JATS のような国際規格制定の際に日本語対応タグ採用などを早くから訴えておくべきだろう。

MEMO

使える図書館を目指す!? --- 医学図書館の移転・新築の経験から

山田久夫 関西医科大学医学部

医学図書館には、一般の大学図書館と大きく異なる性質がある。その理由として、医学部には、①図書館の外に自習室やカンファレンスルームが充実している事、②学部の施設容量に比べ学生数が少なく、またカリキュラムが過密なので学生の「居場所」を大きく考慮する必要がない事、③教材が「本」のみではなくシミュレーション機器や模型あるいは解剖体や患者さんであって、図書館配架資料（教材）の役割が一般と異なる事、④研究資料のデジタル化やオンライン化が早くから進んでいて、大学院生や研究者は図書館に来る必要がない事、などがある。従って、「ラーニングコモンズ」とはいても、一般の大学図書館と同じ基盤では論じられない。

さらに附属病院を持つことから、デジタル化オンライン化が完璧でない医療技術職（看護師さんなど）領域で自席を持たない職員の事も考慮しなければならないし、患者図書室運営にもあたらなければならない。我々のような私立医科大学では、附属病院分院の図書館や看護専門学校図書館などは、監督官庁的にも学内組織的にも半ば図書館組織外でありながら、図書館組織の一員として業務にあたらなければならない悩みも持ってきた。

私は、2003 年から 6 年間、所属大学の附属図書館長を務めたが、手始めに図書資料のオンライン化の推進と関連部署でのデジタル化や IT 化という大きな仕事を頂いた。また館長時代には、分院図書室の閉室と新たな附属病院図書室開室、看護専門学校図書室の改良と運営補助、患者図書室の開室、遠隔地にある教養課程図書館(分館)の改革などをおこなってきた。館長の任期終了間際、新しく得た枚方の校地に、たこ足キャンパスを集約する新学舎構想が持ち上がり、その基本構想までおこなう事もできた。ただ結局のところ、建築関係のもろもろの都合に振り回され、あまり自慢できるような施設にはならなかったが、ごくわずかではあるが基本構想が生かされた部分もある。

このような経験談のうち、患者図書室の運営（医療情報提供型か一般教養書型か）、分院のような小規模病院図書室の運営（著作権法における政令外図書室をどう考えるか）、医学部型ラーニングコモンズをどのようにとらえるか、図書館運営（選書・開館時間・館員配置など）、学内他施設（他部署・他業務）との関係などについての詳細を、口演する。

MEMO

第 22 回医学図書館研究会・継続教育コース プログラム・予稿集

2015 年 11 月発行

編集・発行 第 22 回医学図書館研究会・継続教育コース実行委員会

事務局 〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5-1

神戸大学附属図書館医学分館

TEL 078-382-5301 FAX 078-382-5319

実行委員	青木裕子	天理よろづ相談所病院医学図書館（実行委員長）
	土屋祥子	神戸大学附属図書館医学分館（事務局）
	水上則子	京都大学医学図書館
	大瀬戸貴己	奈良県立医科大学附属図書館